

「内水ハザードマップ」と「洪水・土砂災害ハザードマップ」の見かた

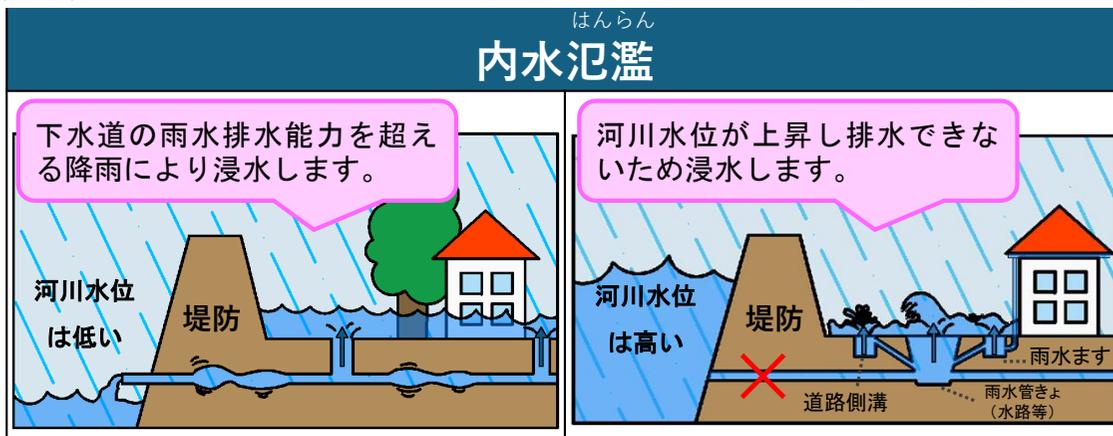
■内水氾濫と外水(洪水)氾濫の違い

浸水には大きく分けて「内水^{ほんらん}氾濫」と「外水(洪水)^{ほんらん}氾濫」があります。

内水^{ほんらん}氾濫は、下水道(雨水)の雨水排水能力を超える降雨や、河川水位が上昇し雨を河川等へ排水できないことで発生する浸水のことです。

(河川の水は溢れません)

外水(洪水)^{ほんらん}氾濫は、河川水位が上昇し、堤防が破堤することで発生する浸水のことです。(河川の水が溢れます)



■「内水ハザードマップ」とは

内水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨(想定最大規模降雨:概ね1,000年に1度の降雨量に相当)により、下水道(雨水)の雨水排水能力を超え内水^{ほんらん}氾濫が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深等を、浸水シミュレーションによって示したものです。

浸水シミュレーションの条件は、ピーク時の1時間に130mm、ピーク時を含む約4時間に156mmの雨が市全域に降り、放流先の河川(千曲川等の一級河川)の水位も高い場合を想定しています。

■「洪水・土砂災害ハザードマップ」(外水)とは

洪水・土砂災害ハザードマップは、想定最大規模降雨により、千曲川等の一級河川が氾濫(破堤)^{ほんらん}した場合に想定される浸水区域や浸水深等を、浸水シミュレーションによって示したものです。

浸水シミュレーションの条件は、国管理の千曲川が2日間の総雨量396mm、県管理の一級河川が24時間に813mmの雨が流域全域に降った場合を想定しています。

※洪水・土砂災害ハザードマップは防災ガイドブックの一部修正図面です。

■ハザードマップの活用方法

雨の降り方に応じて「内水ハザードマップ」と「洪水・土砂災害ハザードマップ」を使い分けましょう。

下図の様に、雨の降り始めから河川水位の急激な上昇が予想されるときは、内水^{ほんらん}氾濫の可能性が高くなりますので「内水ハザードマップ」を確認していただき、雨が長時間続き河川の氾濫が発生する恐れがあるときは「洪水・土砂災害ハザードマップ」を確認してください。

※ハザードマップを使用する時の注意事項

想定される浸水区域や浸水深は、雨の降り方や土地の形状及び河川・雨水管きよ等の整備状況等により変化します。そのため、大雨の際に必ずこのマップに示すとおり浸水するというのではなく、浸水が想定されていない地域でも、状況によっては浸水することもあるため、十分注意してください。

1. 通常は	2. 雨が降り出すと	3. 雨が強く降り続くと	4. さらに雨が降り続くと
<p>浸水想定と近隣の避難所等を把握し、安全な避難経路を確認してください。</p>	<p>徐々に河川や水路の水位が上がり始めます。</p>	<p>水路や排水ポンプ場の能力を超えた雨量になると、土地が窪んだ箇所等で浸水（内水^{ほんらん}氾濫）が発生する恐れがあります。 河川の水位上昇等により水路から排水できなくなると、さらに浸水の危険性は高くなります。</p>	<p>河川堤防が破堤し、外水（洪水^{ほんらん}）氾濫が発生する恐れがあります。</p>
<p>●日頃から 内水ハザードマップ 洪水・土砂災害ハザードマップ を確認！</p>	<p>●雨が降り出したらまずは 内水ハザードマップ を確認！</p>	<p>●雨が強く降り続いて河川の水位上昇が予想されるようになったら 内水ハザードマップ を確認！</p>	<p>●河川が氾濫する恐れがあるときは 洪水・土砂災害ハザードマップ を確認！</p>